

全校集会 学校長の話（2026年5月26日）

- おはようございます。先週、1・2年生のみなさんは、自然体験学習お疲れさまでした。何より、大きな怪我もなく、みんな無事に戻ってこられたことが本当に良かったなと思っています。そして来週からは3年生の修学旅行があります。楽しみですね。
- きょうは、一つの言葉をみなさんに紹介しますので、ちょっと考えてもらおうと思います。実は2・3年生のみなさんには、今年の5月の全校集会で話をしたことがある言葉です。「マイクロアグレッション」。覚えていますか。直訳すると、「マイクロ」は「小さな」、「アグレッション」は「攻撃」。つまり「小さな攻撃」という意味です。自分は悪気なく言った言葉が、実は相手を傷つけている。そういう言葉のことをさします。
- 例えば、ハーフの友だちに「日本語、上手やね」と声をかけるとします。でも、その友だちは日本で生まれて、日本で育って、日本語をしゃべるのは当たり前かもしれない。それとか、技術の時間に女子の作品を見て「女子やのにすごいやん」。こっちは褒め言葉のつもりでも、相手は「女子やのに、ってどういう意味？」と引っかかるかもしれない。男子生徒が落ち込んでいるときに「男やからメソメソするな」「男なんやから泣くな！」と声をかける。励ましのつもりでも、本人は「男やから泣いたらあかんのか」と苦しくなるかもしれない。背の高い友だちに「バスケやってるんでしょ?」。身長とバスケは関係ないんですけどね。
- 一回だけなら笑って済ませられることでも、何回も何回も言われたら、それは小さな傷では済まなくなる。深い傷になっていきます。
- ここで、「悪気はなかった」という言葉について、少し考えてみたいんです。「悪気はなかった」。これ、よく使う言葉ですよ。でも、悪気はなかったからといって、相手の傷がなくなるわけじゃない。例えば交通事故です。車を運転していて、人をはねてしまった。「悪気はなかった」と言ったら、それで無罪になりますか。なりませんよね。「悪気はなかった」というのは、加害をした側が言う言葉です。でも、傷ついているのは被害を受けた側です。そこには、大きな違いがあります。
- これは、僕自身の戒めとして、きょう話をしています。僕は何十年も学校の教員をやってきて、たぶん、知らず知らずのうちに、生徒に嫌な思いをさせたことがあると思います。今から20年ほど前、僕が担任をしていたクラスに、体の大きい男子生徒がいました。みんな、親しみを込めて、その体型をいじったようなあだ名で呼んでいました。僕も調子に乗って、そのあだ名で、その子を3年間呼んでしまっていました。ちなみに、僕はその生徒の担任を3年間していました。
- 卒業式の前日、その彼と話をしたときに、彼は言いました。「先生、実は僕、そのあだ名でずっと呼ばれるの、嫌やったんです」。本当に申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。「ごめんな」と謝ることしかできませんでした。僕は親しみのつもりだった。でも、本人はずっと我慢していた。「悪気はなかった」では済まされない。
- そのうえで、皆さんにもお願いします。自分が言われていやだったことを、ほかの人に言わない。……とりたいところですが、これだけだと足りないですよ。2週間前にも話しましたが、「己の欲せざる所、人に施すこと勿れ」の、その先の話です。自分は平気でも、相手は傷つくかもしれない。だから、**自分を基準にしないで、目の前のこの人はどうだろう、と一回考える**。相手のことを少し想像してから言葉を選ぶ。
- それが、いつも言っている「自分を大切にすること。そして、隣にいる人を大切にすること」につながると思うんです。3年生は来週から修学旅行ですね。相手のことを気遣って、楽しい旅行にしてほしいと思います。1・2年生のみなさんも、マイクロアグレッションという言葉、覚えて帰ってください。スマホで調べてみるのもいいと思います。以上です。